

平成 23 年度第 2 回臨時理事会議事録

日時 平成 23 年 6 月 25 日 (土) 11:00~11:55

会場 都市センターホテル 5 階「オリオン」

出席者

理事長：吉村 泰典

副理事長：和氣 徳夫

理事：石河 修、井上 正樹、岩下 光利、岡井 崇、片渕 秀隆、嘉村 敏治、吉川 史隆、
木村 正、工藤 美樹、倉智 博久、小西 郁生、櫻木 範明、杉浦 真弓、武谷 雄二、
平原 史樹、深谷 孝夫、星合 昊、峯岸 敬、八重樫伸生、吉川 裕之

監事：岡村 州博、星 和彦、丸尾 猛

第 64 回学術集会長：平松 祐司

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹事：梶山 広明、金内 優典、北澤 正文、久具 宏司、小林 陽一、下平 和久、高倉 聡、
多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、濱田 洋実、阪埜 浩司、藤原 浩、増山 寿

議長：佐川 典正

副議長：内田 聡子、清水 幸子

専門委員会委員長：久保田 俊郎、齋藤 滋、堂地 勉

理事会内委員会委員長：海野 信也、竹下 俊行

名誉会員：松本 清一

弁護士：平岩 敬一

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄、小山 圭子

11 時 00 分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総数 23 名のうち 22 名（落合副理事長は欠席）が出席し定足数に達したため、吉村 泰典理事長が開会を宣言した。吉村泰典理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、岡村 州博監事、星 和彦監事、丸尾 猛監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 23 年度第 1 回理事会議事録（案）の確認

原案通り、承認した。

II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総務（岩下 光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

① 林 正則功労会員（山梨）が 4 月 7 日に逝去された。（山梨地方学会より 6 月 9 日報告受領）

② 安倍 龍夫功労会員（福岡）が 6 月 3 日に逝去された。（福岡地方学会より 6 月 10 日報告受領）

(2) 学術集会長候補者選定委員会運営内規の改定について [資料:総務 1]

特に異議なく、本件につき全会一致で承認された。

(3) 牧野 恒久名誉会員からの依頼について

牧野 恒久名誉会員が主任研究員として携わった厚生労働科学研究「化学物質の子どもへの健康影響に関するエピジェネティクス評価法の開発」において、ヒト健康への影響が懸念されている数種類

の化学物質が胚培養液に含まれていることを見出し、本会に対応を求めてきた。生殖・内分泌委員会で対応することとした。[資料:総務 2]

吉村 泰典理事長「牧野先生に手紙を受け取った旨のレターを事務局から出してもらい、生殖・内分泌委員会で検討して、1~2カ月のうちに回答してほしい。」

(4)放射線問題についての一般からの問い合わせへの対応スキームについて [資料:総務 3-1、3-2]
回答についての役割分担・流れ、及び回答にあたり基本となる考え方がまとめられた。

吉村 泰典理事長「一般からの問い合わせには出来限り答える方針のもと、このスキームで対応していただきたい。」

(5) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

6月21日現在、入金済5,116冊、校費支払のため後払希望12冊。

峯岸 敬理事「培養液中に血清を含めて様々な物質が入っていることを認識した上で、今後の研究で検討されるということまでまとめている。」

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

櫻木 範明委員長「昨日の委員会で今後2年間の課題について意見交換を行った。」

(ハ) 周産期委員会

薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会が開催され、

①ニフェジピン、トランデートの「妊婦の禁忌」外しはPMDA調査結果報告書の原案どおり承認、

②ニカルジピン塩酸塩注射薬の禁忌条項「頭蓋内出血で止血が完成していないと推定される患者」「脳卒中急性期で頭蓋内圧が亢進している患者」も原案どおり禁忌から外れ、慎重投与の対象症例になった。

この決定が各製薬会社に対し通知され、添付文書が改訂されることになった。

海野 信也委員長「製薬会社から各病院に連絡がいくことになると思う。」

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

堂地 勉委員長「HPの充実を図るべく、広報にデータを送った。」

[Ⅱ. 官庁関係]

(1) 厚生労働省

同省健康局結核感染症課、医薬食品局血液対策課より、供給不足により接種を差し控えていた子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業について、供給不足がある程度解消したため、部分的に再開する旨の通知があった。HPにより会員に周知したい。[資料:総務 4]

[Ⅲ. その他]

(1) 東京電力より、社員の放射線の基礎知識向上を図ることを目的とした社内資料「乳児による摂取の影響」に、本会資料の出典許諾依頼があった。近く社外公開も予定しているとのことである。

[資料:総務 5]

特に異議なく、本件につき全会一致で承認された。

2) 会 計 (和氣徳夫副理事長) 特になし

3) 学 術 (吉川裕之理事)

(1) 学術委員会関連

平成23年度日本医師会医学研究奨励賞

日本医師会に中山健太郎会員の研究を推薦した（平成 22 年 6 月 16 日）。

(2) プログラム委員会関連 特になし

(3) ガイドライン—産科編

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2008」頒布状況について

6 月 21 日現在、入金済 11,942 冊、後払希望 0 冊。

②「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」予約状況について（速報値）

6 月 21 日現在、入金済 7,520 冊、後払希望 481 冊。

吉川 裕之理事「産科編の作成委員はこの 6 月末に半数の委員が変わる。」

(4) ガイドライン—婦人科外来編

①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について

6 月 21 日現在、入金済 8,098 冊、後払希望 263 冊。

吉川 裕之理事「婦人科外来編の評価委員会はガイドライン周期に合わせて 3 年で委嘱していただくように依頼している。作成委員会は、評価委員会にリンクして医会側の数名の委員には変更があった。」

4) 編 集（岡井 崇理事）

(1) 会議開催

①6 月 10 日に第 1 回編集担当理事会を開催した。和文誌の PDF での保管・学会 HP への収載に関しては次期委員会での検討を続けていただきたい。

②7 月 29 日に和文誌ならびに JOGR 編集会議の開催を予定している。

(2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：2011 年投稿分（平成 23 年 5 月末現在）

投稿数 412 編うち Accept34 編、Reject142 編、Withdrawn/Unsubmitted 56 編、Under Revision56 編、Under Review 121 編、Pending 1 編、Expired 2 編)

(3) JOGR 編集事務局担当者が 6 月末をもって交代する予定である。担当者が変更になっても、編集業務等に遅滞のないようワイリー社に申し入れている。

5) 渉 外（落合 和徳副理事長欠席につき、小林 陽一主務幹事）

[FIGO 関係]

(1) 6 月 11 日、メキシコシティにて開催の FIGO Officers Meeting に本会より FIGO Vice President の丸尾 猛監事が出席した。[資料：渉外 1]

丸尾 猛監事「本年 12 月の日本生殖医学会時の横浜での FIGO Workshop と第 64 回学術集会時の神戸での FIGO Forum は、Officers Meeting でも高く評価された。」

(2) 6 月 12～13 日、メキシコシティにて開催の FIGO 理事会に本会より落合 和徳副理事長が出席した。

(3) 次号 FIGO Newsletter（2011 年 10 月発行）に掲載する FIGO 加盟学会紹介記事として、本会についての原稿執筆の依頼があり、これを応諾した。

[AFOG 関係]

(1) AFOG からの義援金について、AFOG President Professor Pak Chung Ho に落合 和徳副理事長が本会からの感謝状を手渡した。

(2) 9 月 24 日、26 日に行われる AFOG 総会に本会から理事 2 名が参加し投票権を行使する予定であり

落合 和徳副理事長がいずれかの役員ポジションへの立候補を検討中である。
また JOGR 担当役員については、上妻 志郎次期編集常務担当理事を推薦予定である。

(3) AFOG の IVF に関する情報提供について [資料：涉外 2]

吉村 泰典理事長「データを集めて国立成育医療センターの齊藤先生にお願いすることにしたい。」

[SOGC 関係]

(1) 6月21～25日バンクーバーにて開催の The 67th Annual Clinical Meeting of SOGC に、本会より落合 和徳副理事長が出席し、東日本大震災についてプレゼンテーションを行った。SOGC からの義援金について本会からの感謝状を送る予定である。

[KSOG 関係]

(1) 第63回日産婦学術講演会参加の際の KSOG 会員へのスポンサーシップについて、本会から KSOG へ Letter of Authorization を送付した。

[その他]

(1) 第63回日産婦学会総会にて行う予定であった海外名誉会員2名 (Professor Sir Sabaratnam Arulkumaran、Professor Walfrido W. Sumpaico) の表彰について、第64回日産婦学術講演会/臨時総会に持ち越すことになった。

(2) 本会 HP 海外学会・研修会スケジュールに以下の学会を掲載した。

① Reproductive Health Conference and FIGO Joint Meeting (2011年11月23～25日、於：タイ アユタヤ KrungSri River Hotel)

6) 社 保 (星合 昊理事)

(1) 会議開催

7月1日、第1回社保委員会を開催の予定である。

(2) 外保連ニュース号外 (8月発行予定) に吉村 泰典理事長執筆による「東日本大震災に対する日本産科婦人科学会の対応」を掲載する。

7) 専門医制度 (櫻木 範明理事)

櫻木 範明理事「専門医制度評価認定機構の理事長との対談企画があり、出席した。インターネットで配信される予定である。」

8) 倫理委員会 (嘉村敏治委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成23年5月31日)

① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：44 研究

② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：585 施設

③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：585 施設

④ 顕微授精に関する登録：507 施設

⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：16 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

6月17日現在申請229例 [承認204例、非承認4例、審査対象外18例、取り下げ1例、照会2例]
(承認204例のうち7例は条件付)

(3) 「出生前に行われる検査および診断に関する見解」の改定について [資料：倫理 1]

平原 史樹理事「会員の皆さんのご意見をいただきながらまとめた。」

9) 教育 (小西 郁生理事)

(1) 会議開催

①6月10日に若手育成委員会との合同委員会を開催した。

②7月1日に第3回若手医師企画グループ打合会を開催し、第4回若手医師企画グループの先生方にも陪席していただく予定にしている。

櫻木 範明理事「専攻医のための教育プログラムは今後学術集会でやることになるので、若手医師企画グループ打合会に専門医制度と学術からも参加した方が良い。」

小西 郁生理事「若手で企画する内容についても今後どうするか、を再検討する局面にあり、この件についても別途検討したい。」

吉村 泰典理事長「今後の専門医制度はより重要になる。そのなかでアドバンスのサブスペシャリティを考えるなど、専門医制度委員会、未来ビジョン委員会でも議論を進めていただきたい。」

(2) 「産婦人科研修の必修知識 2011」頒布状況について

6月21日現在、入金済5,052冊、後払希望76冊。

周産期・新生児医学会 水上 尚典会長の依頼により本会より発刊している書籍を7月10～12日まで開催の第47回日本周産期・新生児医学会会場において販売を予定している。

(3) 必修知識電子版発刊について

電子版発行の方針とはしたが、今後見積をとり理事会等に報告していく方針である。

(4) 用語集の発刊について

用語集の発刊については、金原出版との長年の契約等もあるが契約面・著作権・出版権の問題をクリアにしながらいずれ学会で発刊するかを決定したい。

10) 地方連絡委員会 (和氣 徳夫副理事長)

全47地方学会に業務委託契約書を送付し、6月21日現在、38地方学会と締結済みである。

和氣 徳夫副理事長「公益法人化に伴う学会の名称変更が必要となる。今後は地方連絡委員会の内規変更を理事会で出来るように議論を進めていただきたい。」

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (吉川 史隆委員長) 特になし

2) コンプライアンス委員会 (平松 祐司委員長) 特になし

3) 医療改革委員会 (海野 信也委員長)

(1) 「これからのエネルギー政策の方向性について」(脱原発提言案)について [資料:医療改革1]

海野 信也委員長「本件はまだ揉む必要があると思うので、本日および新理事会の場を通して議論をしたい。」

吉村 泰典理事長「学会の役割として本件をどう扱っていくか、新理事の間で議論が必要かと思う。」

武谷 雄二理事「政治的見地なのか学術的見地からの要望にするのか難しい。妊娠・出産・子育てについては本会は発言すべきであるが、その際に原発の是非に言及しないと迫力がない。そこをよく議論する必要がある。」

岡井 崇理事「この提言には下敷きに原発に対する見解が必要である。そのためには会員のコンセンサスが不可欠であるため慎重さを要する。」

海野 信也委員長「そういった議論をすることが必要である。専門団体として発言できることは多くないなかで、問題意識を提示する意味で作成した。」

吉村 泰典理事長「どこに提出するかも難しい。この問題は早ければ良いという訳ではないので、会員に広く意見を聞くステップを踏んで進めてほしい。」

4) 男女共同参画委員会（竹下 俊行委員長） 特になし

5) 若手育成委員会（齋藤 滋委員長）

(1) 第5回産婦人科サマースクールについて
サマースクール応募状況(6月21日現在)

195名(5年生:28名(男6名、女22名)、6年生:18名(男6名、女12名)、初期1年目:64名(男23名、女41名)、2年目:84名(男23名、女61名)、後期研修医:1名(女1名))

(2) 第6回産婦人科サマースクールについて

前回理事会の議を経て、東北地方での開催についてデータを集めている。

収容人数、会場の広さ、全国からの交通の便なども含め検討を進めている。

吉村 泰典理事長「寄付については、あまり偏りがないようにお願いしたい。」

Ⅲ. 平成23年度定時総会運営について

(1) 代議員からの質問・要望事項 [資料:総会1]

吉村 泰典理事長「質問事項は2つだが、回答についてとくに問題はないと思う。」

(2) 禁煙推進学術ネットワークについて

吉川 史隆理事「同ネットワークでは禁煙に関する要望書を出す予定だが、本会としても禁煙の主旨は一致しているので、今回提出予定の要望書には参加する方向で考えたい。」

特に異議なく、本件につき全会一致で承認された。

以上